1. プロジェクト概要

我々高大連携チームは，

「高校生に素敵な学びを届け，かけがえのない思い出を作ってもらう」

「様々な人と出会い，自分の可能性を広げ深める」

を理念に活動しているチームです．

具体的には，大学生が主体となり．．．

①高校生と大学生が協働する「高大連携イベント」，

②高校生と大学生，社会人が協働する「高大連携＋産官学連携イベント」

の立案，運営を行っています．

イベントを通じ，高大連携チームは**誰もが気軽にかかわることができ，学ぶことができ，最高の思い出を作ることができる「学びや探究のプラットフォームになりたい」**と考えております．

チームの活動形態上，高校生と多くかかわるため，**教員志望者にはもってこい**のチームです！もちろんそれ以外の方も大募集です！

RINGS高大連携チームを通じて叶えたい夢，実施したいイベントはありませんか？

RINGS高大連携チームの一員として活動しませんか？

RINGS高大連携チームには無限の可能性があります!!!

メンバーはいつでも大募集!!　一緒に最高の学びや活動を多くの人に届けていきましょう!!!

また，高大連携チームでは高等学校側からのイベント実施のご希望も受け付けます．
高大連携チームと実施したいイベント等がございましたらお気軽にご連絡ください．

2. 活動履歴

実施イベント

- 日本大学櫻丘高等学校 × RINGS高大連携チーム 合同探究プロジェクト

  「高大連携＋産官学連携イベント」です.

  社会人，大学生，高校生でグループを作り，グループごとに社会人の専門分野に関する社会課題について探究を行い，発表するイベント.

  2021年度と2022年度に実施し，高校生からも好評をいただいております！

  2021年度発表会報告ページ

  2022年度発表会報告ページ

- ウチらにもできんの？SDGsと高校生

  日本大学明誠高等学校との「高大連携イベント」です.

  高校生に**SDGsを身近なものに感じてもらい**,

  高校生が行うことができるSDGsの活動等について考えを深めるイベントです

メンバーインタビュー

高大連携チーム

RINGS生/文学研究科教育学専攻博士前期課程１年　谷本晃輝
プロボノ　畠中尚範（豊田市役所勤務）

（取材日：2023年6月28日）

ーープロジェクトのはじまり

谷本：
私が通っていた日本大学三島高等学校は、高校生が大人と一緒になってイベントをやる機会が多かったんです。たとえば、授業の一環で町おこしのプランを考えて地域の企業や他校の先生方に向けて発表したり、あとは「ギネスに挑戦したい！」という生徒の発案から、文化祭では地元グルメの“みしまコロッケ”で食べさせ合いの世界記録に挑戦したりしたこともありました。

沼津経済新聞「三島の高校でコロッケ食べさせ合いギネス世界記録　「地域の力」で世界記録に」

自分の体験から、**高校生のときに大人の社会に触れる機会があると、学びの視野や世界が広くなることを身をもって実感**しました。そして、そんな高校生活を送ることができたのは、先生方が新しいことに非常に前向きだったおかげだと思います。だから自分も、何かしら高校生が社会に触れる機会を提供できればと考え、RINGSで高大連携プロジェクトを提案したんです。

畠中：
RINGSのコミュニティでは、話したい話題やプロジェクトのチャンネルを誰でも自由に立ち上げることができます。
私は普段、豊田市役所に勤めていまして、もともと今の高大連携プロジェクトに似たような取り組みを市で行っていたんです。

高校生という年代は非常に多感で、彼らが持っている爆発的なエネルギーに僕はすごく魅力を感じるんです。勉強以外に自分の意思で好きなものを見つけて夢中になる彼らは、常に流行の最先端をいく存在だと思っています。市役所も、常に流行を知る必要があると思うんですけど、高校生と交流するきっかけはなかなかないんですよね。なので、そういった機会を作り出すために、豊田市では高校生を対象にしたインターンシップを実施したり、市内の私立高校と一緒になって「バーチャル市役所」という高校生が擬似的に市の職員になって課題を一緒に考える活動を行ったりしています。

RINGSのコミュニティで谷本さんの呼びかけを見て、ちょうど「手伝ってくれるプロボノの方いませんか？」といった募集もあったので、これは参加しなければと手を挙げました。

ーー活動内容

谷本：
文理学部のお隣りにあって、連携校である日本大学櫻丘高等学校（以下、櫻丘高校）とは２年続けてイベントをやらせていただいています。

最初は私みずから、スーツにネクタイを締めて櫻丘高校へうかがって、プロジェクトのプレゼンテーションを聞いてもらいました。校長先生に向かって企画のプレゼンをすることなんてなかったので、緊張しましたよ……。ましてや、２年前はまだRINGSができて間もない頃でしたから、RINGSの概要からお話しして、「高大連携プロジェクトではこういうことがやりたいんです！」という説明をしました。正直、手ごたえはそんなになかった記憶なんですけど（笑）、貴重な経験をさせてもらいましたし、今ではこうして継続的にイベントを実施しています。

畠中：
当時は「いい汗かいてるなぁ」と思いながら見守ってましたよ（笑）。谷本くんのいいところのひとつですけど、素直に正面からぶつかっていくんです。僕からすれば、**これだけの熱意をぶつけられたら、心動かない大人はいないよね**、と。本人は四苦八苦したでしょうが、打算なく熱心さを出せるというのはすごいことです。こういう人は、いつか一緒に仕事がしたくなります。

谷本：
ありがとうございます（笑）。
櫻丘高校で行っているのは、高校生と大学生と社会人が一緒になって、社会課題について全７～８回で探究活動を行うイベントです。
３つのチームに分かれて、それぞれのチームにプロボノに入っていただき、基本的にはそのプロボノの方の専門分野が探究のテーマになります。畠中さんには、グループに入るプロボノの役割を担っていただいています。

畠中：
プロボノの専門分野と言いつつ、僕はあくまで高校生主体でテーマを決めるようにしていますね。たとえば、初めてイベントを開催した年の僕のチームでは、高校生に気になることを挙げさせてLGBTQ+について深掘りすることになりました。市役所職員という立場ではLGBTQ+の専門性に長けているわけではないのですが、たまたまダイバーシティアテンダントという、障がい者やジェンダー、外国人や高齢者などの特性に関する基礎知識の資格を持っていたので、ある程度はチームの力になれたかなと思います。

谷本：
探究活動のゴールは発表会です。リハーサルもやって、修了証のような賞状も用意します。何かしら成果物はあったほうが嬉しいし、手元に物が残ったほうがRINGSの高大連携プロジェクトで活動したことを忘れないでもらえるかなと思うんです。

櫻丘高校のほかにも、今年は山梨県の日本大学明誠高等学校（以下、明誠高校）ともイベントをやらせてもらいました。内容は、SDGsについて大学生が講義を行い、高校生とカジュアルに議論を交わすイベントでした。

こちらは私の主導ではなく、プロジェクトに新しく入ってきた明誠高校出身のメンバーがやりたいと言ってくれたんです。最初の高校へのアプローチから、企画もすべてお任せして。多少のアドバイスや意見を求められたときのフィードバックはしましたが、ほとんど私はタッチしていません。**自分がいなくなったら終わってしまうプロジェクトでは意味がないので、いずれはそうい**

うふうにしていきたかったんです。RINGSがうたっているウニ型組織のように、高校と一緒にやりたいイベントがある人がどんどん企画を立案して実行してくれればいいと思っているし、そのきっかけとして高大連携プロジェクトという、私は場所を作ったに過ぎないと考えています。

ーー成果とやりがい

谷本：
イベントは授業とかではない有志制の催しですから、「何人くらい集まるかな。一人でも二人でもやりたいと言ってくれる人がいるなら全力でやろう！」と思っていたんですけど、最初にやった２年前の櫻丘高校のイベントには15人ほどの高校生が集まってくれました。びっくりしましたし、嬉しかったです。

あとはやっぱり、**活動中のみんなから笑顔がこぼれる場面を見るとやりがいを感じます。**私の学部生時の指導教員で、高大連携プロジェクトを担当してくれている伊佐野龍司先生（体育学科准教授）からも「探究は楽しくなければならない」と教えていただいていたので、高校生の皆さんから「楽しい」と言ってもらえて良かったですね。

最後の発表会も毎回、本当に素晴らしくて、高校生の怖いもの知らずなエネルギーが、発表に自由な発想をもたらしてくれるんです。高校生、大学生、プロボノといういろんな立場の人が一緒になって探究する意義を感じます。

畠中：
発表会は、自分のチームだけじゃなくて、みんな本当にすごかったですね。考え方がしっかりしているし、舞台に立つ度胸もあったと思います。

活動中もそうなんですけど、みんなが課題を自分ごととして捉えているのが良くて、「こういうことを調べておこうね」と投げるとみんなしっかり深くまで調べてくるんです。だから僕は基本的に褒めるばかりで、たまに「こんな視点もあるよ」と付け足しをするくらいの気分でした。

高大連携プロジェクトに参加するにあたって、僕は“いい大人”でいようと心がけていたりします。高校生という年代で触れ合う大人って、基本的には親や先生といった身近な存在に限られている気がして、そういう時期に谷本くんのような、**別の世界から来たいい大人に出会うことは、大人になることに前向きになれる、高校生にとっては滅多にない機会**だと思うんです。

RINGSにいる人は学生もプロボノもいい意味でクセがあるというか（笑）、それぞれが独自性をもって活動していると思うんですけど、共通点と言えるのが積極的で前向きな人ばかりなんですよね。そんな僕らだからこそ、高校生特有の社会や親への反発心からくるエネルギーは、大人になったら自分のやりたいことへ向けるエネルギーに変えられるんだよ、ということを自分の姿で示せたらいいな、と。高校生の意見は否定しないで「いいね」と言いながら、エネルギーを落とさずに軌道修正をかけるだけにできればいいかなと考えつつ交流しています。

ーーRINGSについて

谷本：
自分のやりたいことをプロジェクトとして立ち上げ、実際に取り組むことができる環境がRINGSの強みだと思います。私自身も「高校生と何かやりたい！」という気持ちでプロジェクトを始めてみたら、畠中さんをはじめ一緒にやってくれる人が集まってきてくれました。

高大連携プロジェクトでは今、活動としてイベントをやっていますけど、別にイベントの開催が目的やゴールというわけではなくて「高校と何かやってみたい」という発想であればなんでもやっていいプロジェクトだと考えています。固くなり過ぎず、ゴールを決めないで全力で走り出してみたら面白いことにつながるんじゃないか。**参加してくれるメンバーにも、初心の熱を大事にしてもらいたい**んですよね。

畠中：
僕はプロボノという立場でプロジェクトに参加しているので、参加するからには高校生には豊田市に親しみを持ってもらいたいなと思っています。……と言いつつ、仕事的な考えは実は一番最後で（笑）。そもそも僕はいろんなことを知りたがりな性分でして、RINGSは世の中を知る場として活用しています。そういう姿勢でプロジェクトに参加しているうちに、結果的に「豊田市には面白い職員がいるんだな」と思ってもらえたり、一緒に活動した高校生が大人になったときに「そういえば私、豊田市の人と一緒に活動したことあるよ」と思い出してもらえたりすれば、のちのち何かにつながっていくんじゃないかなと考えています。

谷本：
ひとまず私が率いる高大連携プロジェクトはこれからもイベントを実施する方向で、今後は開催する高校を広げていきたいです。私たちがいろんな高校へうかがって、学びの集落を広げていき、「RINGSの高大連携プロジェクトが、学びやさまざまな活動の中心地」と言われるようになったらと思っています。

イベントに参加してくれた高校生が大学に進学して、RINGSに入ってくれたりもしているんですよ。卒業後もプロボノとして参加し続けたいと考えてはいますが、新しいメンバーが回してくれたほうがプロジェクトの持続可能性が上がると思うので、「高校生と何かやってみたい」と思った方は是非、気軽にプロジェクトに参加してもらえると嬉しいです！

（画像11）

取材：土門広香（RINGS生/情報科学科３年）／奥村ひとみ（RINGSスタッフ/ライター）

写真：成田脩造（RINGS生/地理学科４年）

執筆協力：古賀日南乃（RINGS生/情報科学科２年）

構成：奥村ひとみ（RINGSスタッフ/ライター）